

2025 年 9 月 2 日

一般社団法人日本建設業連合会

BIM 部会

BIM 啓発専門部会

2025 年度日建連 BIM セミナー 開催報告

■セミナー概要

- ・日時： 2025 年 6 月 27 日（金）9 時 00 分～17 時 10 分
- ・場所： Zoom ウェビナー
- ・参加者 1,161 名（申込 1,381 名、出席率 84%）

スケジュール	時間	プログラム	発表者	司会
はじめに				
9:00 ～ 9:05	5分	開会挨拶	曽根 巨充（BIM部会長）	吉田 知洋 （BIM啓発 専門部会 副主査）
9:05 ～ 9:10	5分	主旨説明	三輪 哲也（BIM啓発専門部会主査）	
第 1 部 事例発表				
9:10 ～ 10:10	15分 ×4	【テーマ①】 BIMモデル合意と施工計画・発注 での活用	事例発表① 奥田 大輔（浅沼組） 吉川 裕人（浅沼組） 事例発表② 伊野上 太一（鴻池組） 後藤 尉彦（鴻池組） 事例発表③ 菅野 葵（熊谷組） 事例発表④ 水谷 基樹（前田建設工業）	吉原 裕之 （BIM啓発 専門部会 委員）
10:10 ～ 10:25	15分	質疑応答・討議		
10:25 ～ 10:35	10分	休憩		
10:35 ～ 11:35	15分 ×4	【テーマ②】 BIMモデル合意と数量算出・施工図 作成での活用	事例発表⑤ 佐々木 得壮（大林組） 池田 哲朗（大林組） 事例発表⑥ 岡田 義樹（三井住友建設） 事例発表⑦ 児嶋 修也（銭高組） 事例発表⑧ 坂巻 悟志（フジタ）	西山 英治 （BIM啓発 専門部会 委員）
11:35 ～ 11:50	15分	質疑応答・討議		
11:50 ～ 12:50	60分	休憩		
12:50 ～ 13:35	15分 ×3	【テーマ③】 BIMモデル合意と施工計画・製作 での活用	事例発表⑨ 佐藤 浩介（長谷工コーポレーション） 事例発表⑩ 岩倉 巧（安藤ハザマ） 事例発表⑪ 渡邊 太久実（戸田建設） 尾登 駿一（戸田建設） <討議参加> 垣内 延介（BIMデータ連携WGリーダー）	田中 元明 （BIM啓発 専門部会 委員）
13:35 ～ 13:50	15分	質疑応答・討議		
13:50 ～ 14:00	10分	休憩		
14:00 ～ 15:00	15分 ×4	【テーマ④】 BIMモデル合意と施工段階での活用	事例発表⑫ 森田 啓夫（鹿島建設） 事例発表⑬ 原 康輔（西松建設） 田村 大地（西松建設） 事例発表⑭ 平田 祐之介（大成建設） 事例発表⑮ 三戸 景資（清水建設） <討議参加> 染谷 俊介（BIMデータ活用WGリーダー）	中村 治男 （BIM啓発 専門部会 委員）
15:00 ～ 15:15	15分	質疑応答・討議		
15:15 ～ 15:25	10分	休憩		
15:25 ～ 16:25	15分 ×4	【テーマ⑤】 生産情報反映と施工段階での活用	事例発表⑯ 飯島 千晴（東急建設） 事例発表⑰ 中川 英臣（奥村組） 脇田 明幸（奥村組） 事例発表⑱ 梶本 宗一郎（竹中工務店） 事例発表⑲ 山崎 優也（五洋建設）	吉田 知洋 （前掲）
16:25 ～ 16:40	15分	質疑応答・討議		
16:40 ～ 16:50	10分	休憩		
第 2 部 日建連活動報告				
16:50 ～ 17:05	15分	BIMデータの連携と活用（現状と今 後の方向性）	曽根 巨充（前掲）	吉田 知洋 （前掲）
おわりに				
17:05 ～ 17:10	5分	閉会挨拶	三輪 哲也（前掲）	吉田 知洋 （前掲）

■開催挨拶

本セミナーは、今年で5回目の開催を迎え、約1300名の参加登録を得た。このように、BIMに関するイベントとして多くの方々に周知されるようになったのは皆様のおかげであり、感謝を申し上げる。

本年度の主なテーマはBIM部会に参加しているゼネコン19社の「事例発表」であり、今回で4回目の実施となる。セミナー参加者からは事例発表開催のニーズが高く、継続的にこのテーマを採用している。

日建連建築本部の取り組みの重点課題の一つとして「建築BIMに関する課題への対応」が位置づけられ、設計施工一貫方式におけるBIMの課題解決に向けた検討を進めている。

2022年には日建連においてBIMロードマップが作成され、2025年度の業務スタイルの確立、2030年度の業務スタイルの定着を目指して様々な取り組みが行われている。主な成果物には、建築BIM、設計BIM、施工BIM、人材教育が含まれ、本セミナーは人材教育の一環として位置づけている。

本セミナーは事例発表を通じて、BIMの効果や現在地を多くの方と共有し、次のステップへとつなげることを目的としている。事例の多くは、単なるモデリングや可視化に留まらず、施工者がハブになって設計者や専門工事会社とデータ連携するワークフローの確立に寄与することを具体的に示している。今回のセミナーでは、活用に応じたグルーピングを行い、BIMの多様な活用が進展していることを概観できるよう配慮した。



BIM 部会 曾根部会長

■主旨説明

本セミナーの主旨は、『施工BIMのスタイル 事例集2024』の掲載事例を発表することである。BIM部会参加の全19社による各社で取り組まれた様々な事例を深掘りして、活用のポイントや成果、課題などを共有することで、セミナー参加者のBIM推進にあたって役立つものになることを期待している。そして、活用目的で設定した5つのテーマでグルーピングすることで、多様な活用の体系的な把握を容易にすることを意図している。

発表事例の概要をBIMワークフローでマッピングしており、様々な関係者、フェーズ、活用目的、工種における事例を共有する。フロントローディングや施工準備段階で、生産情報の提示、施工計画での活用、BIMモデル合意、数量算出・発注での活用、施工図作成での活用、製作での活用、施工段階で、施工前合意形成、進捗・出来高管理での活用、施工アシストなどの事例を説明する。



BIM 啓発専門部会 三輪主査

■質疑応答・討議（概要）

【テーマ①】 BIM モデル合意と施工計画・発注での活用



浅沼組 吉川裕人 奥田大輔



鴻池組 伊野上太一 後藤尉彦



熊谷組 菅野葵



前田建設工業 水谷基樹



BIM 啓発専門部会 吉原委員
質疑応答（浅沼組、鴻池組、熊谷組、前田建設工業）

1. 「BIM モデル合意」を行う際、どの項目に対する合意なのかを明確にするために行った工夫
 - ・データ整理の際の名前の付け方への配慮、及び CDE 環境の選定
 - ・プロジェクト開始時にモデル作成ルール、CDE ツールの運用ルールを明確化
 - ・CDE ツールの使用と並行して、従来からある質疑回答書等を作成
2. 現状では「BIM は複雑な建物に対して有効」という認識が主流と思われるが、「一般的な建物でも BIM が有効」となる為には何が必要か
 - ・BIM モデラー他の BIM 人材の育成
 - ・BIM を用いる業務の標準化
 - ・BIM によりプラスアルファの効果を得られることを、現場の方に認識してもらう為の成功体験の積上げ

【テーマ②】 BIM モデル合意と数量算出・施工図作成での活用



大林組 佐々木得壮



三井住友建設 岡田義樹



銭高組 児嶋修也



フジタ 坂巻悟志



BIM 啓発専門部会 西山委員
質疑応答（大林組、三井住友建設、銭高組、フジタ）

1. 施工図作成時の苦労と工夫

- ・苦労した点としては、BIM モデル作成の労力と時間についてが挙げた。
- ・工夫した点として、「BIM でやり切る」意識付け、Revit の機能活用による手間削減、BIM コンサルの活用、そして 3D モデルによる事前合意形成が有効である。

2. 協力会社からの施工図の評判

- ・3D モデルによる調整・干渉チェックの容易さや、視覚的理解の促進が好評との意見があった。
- ・BIM から出力した施工図も従来の品質と同等と評価され、3D モデルのさらなる活用への期待も示された。

【テーマ③】 BIM モデル合意と施工計画・製作での活用



長谷工コーポレーション 佐藤浩介



安藤ハザマ 岩倉巧



戸田建設 渡邊太久実 尾登駿一



BIM 啓発専門部会 田中委員／BIM データ連携 WG 垣内リーダー
質疑応答（長谷工コーポレーション、安藤ハザマ、戸田建設）

1. BIM モデル合意における現状の苦心点また今後改良すべきと思われる点

- ・BIM モデルをいかに正確なものを専門工事会社さんに渡せるかというところで、元請けでの BIM モデルのチェックを重点的に行った。
- ・BIM 連携できているところとできてないところの伝達をしっかりとすることによって、お互い理解を深めて連携を進めた。
- ・手戻りのないデータ連携をまずは目指した。

2. データ連携後の専門工事会社からの評価

- ・データを連携することによって一から入力することがなくなり、その分業務効率化になった。
- ・連携する中で製作レベルの納まり検討にうまく使えていた。
- ・図面的な手戻りも現地での手戻りもかなり最小限に抑えられて、そこが遅延なくできたというところで一番評価をもらった。

【テーマ④】 BIM モデル合意と施工段階での活用



鹿島建設 森田啓夫



西松建設 原康輔 田村大地



大成建設 平田祐之介



清水建設 三戸景資



BIM 啓発専門部会 中村委員／BIM データ活用 WG 染谷リーダー
質疑応答（鹿島建設、西松建設、大成建設、清水建設）

1. BIM マネージャー（コーディネーター）に必要な経験・知識と教育

- ・ 建築の知識・経験を持ったうえで BIM 推進部署を経験したことで、所長として現場での部下・若手の BIM 教育を实践できた。
- ・ 現場をまとめるうえで建築の知識は必要。一方、BIM の部署を経験するのも有効である。
- ・ 現状、建築の専門家と BIM の専門家が協力して対応している。
- ・ 工務がわからないとコーディネートできない。「データを使う」ための適切なツールを用意し、工務担当が使えるように教育する。

2. 現場での BIM 活用のお奨め

- ・ AM（アセットマネジメント）での活用は発注者次第であるが、施工中でも管理やデータ活用に使えるツールがあるので、現場に展開していきたい。
- ・ 躯体工事では活用しやすいが、変更が多かったり専門工事会社に依存する仕上工事は課題が多い。
- ・ 建築に詳しくない発注者とのコミュニケーションツールとしてとても有効である。
- ・ 設備を含めた総合調整で有効で、使いやすいツールが増えてきた。

【テーマ⑤】生産情報反映と施工段階での活用



東急建設 飯島千晴



奥村組 脇田明幸 中川英臣



五洋建設 山崎優也



竹中工務店 梶本宗一郎
(オンライン)



BIM 啓発専門部会 吉田副主査
質疑応答 (東急建設、奥村組、竹中工務店、五洋建設)

1. それぞれの事例で BIM の導入を決めた時期とその決定要因

- ・BIM の導入時期については、複雑な形状を持つ場合や特定の建物用途の事例では、受注前の提案時や受注後すぐに BIM の導入が決定された。ほかの事例では、基本計画終了後から設計 BIM を開始し、その後生産設計での BIM につなげる形で運用された。
- ・BIM の活用を決めた要因としては、複雑な形状のため BIM が必須であったことのほか、小規模な物件は工程の期間が短く施工時に問題があると工程が滞り易いため工程遅延リスクの回避や、地方でのスタジアム建設のため経験者が少ないため、作業手順や納まりを分かり易く共有することが紹介された。
- ・設計者と施工者が BIM で協業した際の留意点として、設計施工間で情報の整合性をお互いが作成したモデルを用いて確保することが指摘された。
- ・BIM の効果として、施工シミュレーションや 3D プリンターによる模型作成が、施工時の品質と安全の確保に有効であることがあげられた。作業所では、最終的な形状や手順だけを可視化するのではなく、検討途中の案を模型や仮想空間内で可視化し、最適な施工方法をトライ&エラーを繰り返し検討する形で活用された。

■アンケートの回答（概要）

※アンケートの集計結果や参加者の意見・感想などは別紙の[「日建連 BIM セミナー2025」アンケート結果]を参照。

(1) セミナー参加者について

- ◇ 前回 2024 年度に比べ、参加者は 1202→1161 名となり、ほぼ同等であった。
- ◇ 所属会社では、元請会社の参加割合が前年 75→74%、専門工事会社の参加割合が前年 11→10% とほぼ同等で、設計事務所の参加割合が前年 3→5%、その他(官庁・自治体、ソフトウェアベンダー、研究・教育機関、デベロッパー・コンサル、その他)の参加割合が前年 12→12%となった。
- ◇ 所属部署では、施工(現場・内勤)、ICT 関連、その他が増え、BIM 推進部門、設計、研究・開発が減った。

(2) セミナーについて

- ◇ 講演時間は 63%が「ちょうどよかった」、36%が「長かった」と評価された。
- ◇ 「後日の配信」を望む意見あり。
- ◇ セミナーの参考度合いは、94%が「参考になった」と回答した。
- ◇ また、「課題解決の一助になった」や、「フェーズごとに分けた紹介で非常に良かった」「これが大変、これが出来なかったという本音の発表をしてもらいたい」などの意見を得た。

(3) BIM の取組みについて

- ◇ BIM の取り組み状況は「会社として取り組んでいる」が 81%と昨年度の 80%とほぼ同等であった
- ◇ 設計 BIM の目的は、「納まり確認」44%、「合意形成」40%、「図面作成省力化」24%、「設計シミュレーション」23%となった
- ◇ 設計 BIM の課題には、「人材」「教育」「モデル作成時間」「費用対効果」「社内の理解」「データ連携」などが挙げられた。
- ◇ 施工 BIM の目的は、「施工管理の効率化」「合意形成」「納まり確認」「施工シミュレーション」などが減少し、「図面作成省力化」「図面承認効率化」「コストの透明化」が増加した。
- ◇ 施工 BIM の適用工種は「仮設工事」「鉄骨工事」「RC 躯体工事」「設備工事」「施工図・製作図」が多く、前回より全体的に増加傾向となった。
- ◇ 施工 BIM の課題は、「人材」「教育」「費用対効果」の順に多く、全体的に増加傾向となった。

以上